

一生懸命に練習した「ブレーメンの音楽隊」を披露する小学部の児童7人ら



劇や意見発表 堂々と披露 函館聾学校

函館聾学校（門真義弘校長）は1日、同校で学習発表会を開いた。幼稚部と小学部の児童10人が劇を披露したほか、中学部の生徒4人が意見や主張を発表。訪れた保護者や卒業生でデフボウリング日本代表の桜庭まどかさん、支援するボランティアアバンクのスタッフら約60人が日頃の学習の成果を喜んだ。

今年のテーマは児童生徒会が考えた「頑張る心、一生懸命な気持ち、みんなに届けよう!」。劇は、幼稚部は「3びきのやぎのらがらどん」、小学部は「ブレーメンの音楽隊」。9月末からセリフの練習や小道具の製作、衣装作りに励んだ。言葉と手話で物語を表現し、ミュージックベル演奏の見せ場や全員で踊る場面では、来場者が拍手で応えた。中学部の生徒は日常生活で自分が見つけたテーマ「地震リスクと防災社会」

「犯罪を減らすために」など、スライド資料を説明しながら一人一人考えを伝えた。発表を見守った保護者の福寿ひとみさん（42）は「1年に1回の山場で、一回り成長した子どもたちを見ることができて親としてうれしい」と話した。

（竹田 巨）